

# 地域支援と地域づくり

東海大学 建築都市学部建築学科 准教授  
アーバンデザインセンター小田原 副センター長  
後藤 純

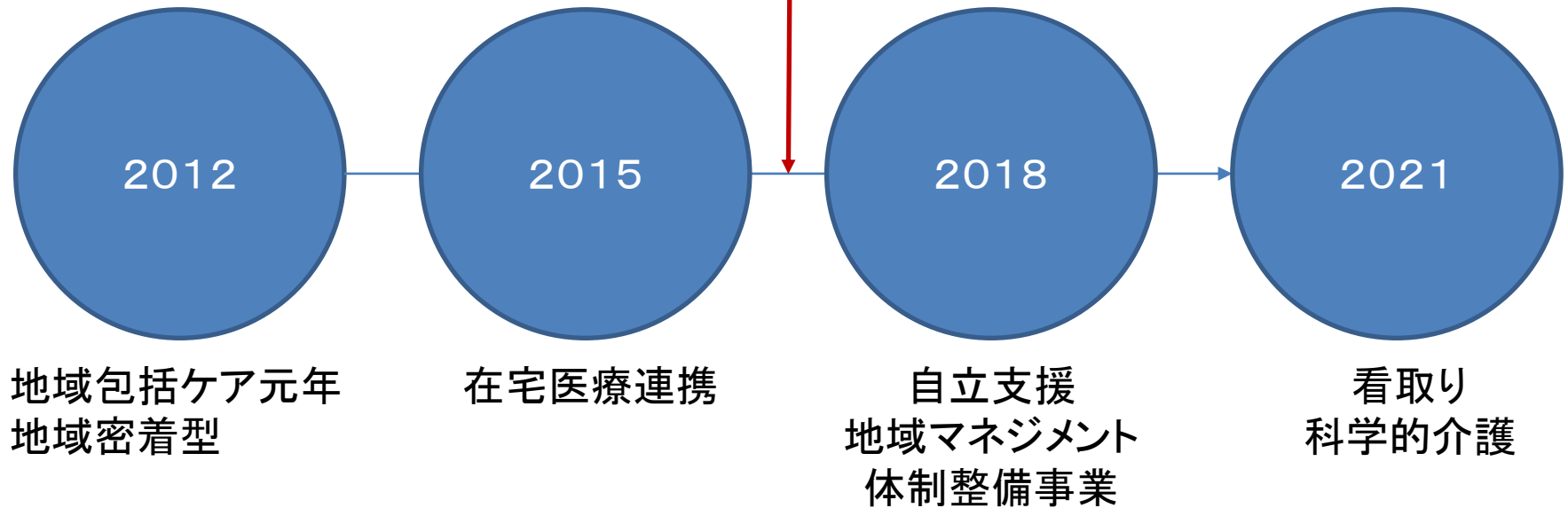
# 自己紹介

- 後藤 純(ごとう じゅん)
  - 1979年 群馬県利根郡片品村
- 東京大学大学院 都市工学専攻(博士)
- 東京大学 高齢社会総合研究機構
  - 特任講師
  - 在宅医療を含む地域包括ケアシステムの実装
  - 被災地の立体的復興、エイジフレンドリーシティ
- 東海大学建築都市学部建築学科
  - 准教授(2020) 都市計画研究室
- 各種委員
  - アーバンデザインセンター小田原 副センター長
  - 秋田県高齢者対策協議会 委員
  - 岩手県釜石市 地域包括ケア推進アドバイザー
  - 神奈川県川崎市中原区 地域福祉計画推進協議会 座長
  - 福井県坂井地区広域連合 地域包括ケア アドバイザー



# 地域包括ケアの10年間

第70回社保審介護部会  
(2016年12月9日)



## ● 2014年以降の論点

- 在宅医療、病診連携、在宅医療介護連携
- 地域包括支援センターの機能強化
- 健康自立寿命の延伸と住民互助の最大活用 →生活支援体制整備事業
- フレイル予防
- 地域マネジメント

# パワリハから生活リハ、社会参加の実現へ

## リハビリテーションの展開と3つのアプローチ

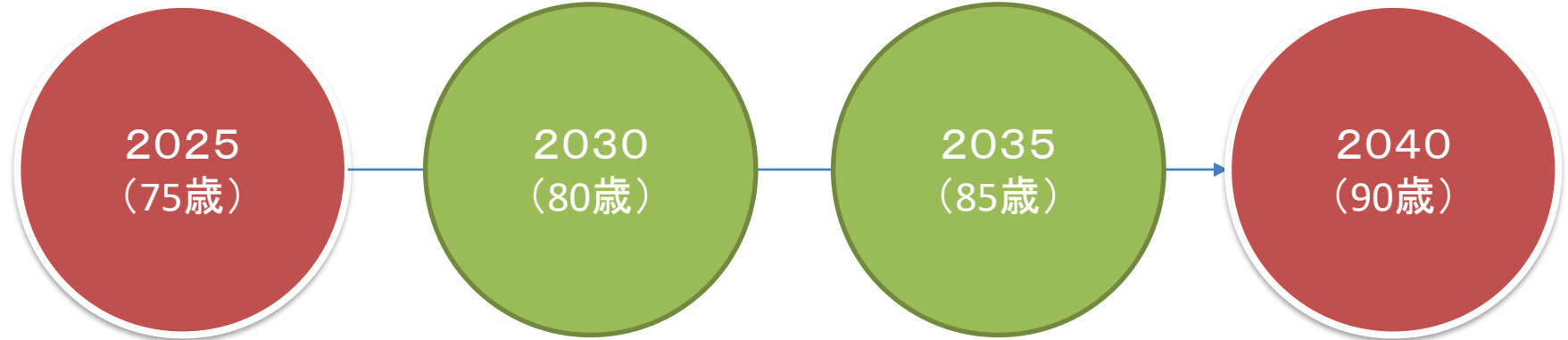
- 介護保険においては、心身機能へのアプローチのみならず、活動、参加へのアプローチにも焦点を当て、これらのアプローチを通して、利用者の生活機能を総合的に向上、発展させていくリハビリテーションを推進している。



- 発症等から早い時期に、主として医療機関において、心身の機能回復を主眼としたリハビリテーションを実施。
- 回復の限界を十分考慮せず、心身機能へのアプローチによるリハビリテーションを漫然と提供し続けた場合、**活動、参加へのアプローチによるリハビリテーションへ展開する機会を逸し、結果として患者の社会復帰を妨げてしまう可能性がある。**

- 治療を継続しても状態の改善は期待できないという医学的判断ののちも、主として介護保険サービス提供施設において、残存機能を活かしながらADL、IADL、社会参加等の回復を目指し更なるリハビリテーションを実施。
- 日常生活や社会参加に伴う実践的な活動を通じて、心身機能を維持。
- 患者が心身機能へのアプローチによる機能回復訓練のみをリハビリテーションととらえていた場合、介護保険によるリハビリテーションを「質が低い」「不十分」と感じる場合がある。

# 20年後の超高齢社会



急性期需要ピーク/  
団塊世代後期高齢/  
免許返納時期

生活支援ニーズ増/  
在宅ケア需要増/  
地域社会の高齢化

医療介護担い手不足  
問題深刻化/  
消費型社会の終焉

女性おひとり様 or  
不安・不満社会

## AGE-FRIENDLY CITY TOPIC AREAS



エイジフレンドリーシティ

## もう1つの、新しい都市像

- 集まって暮らす人の数や密度が減っても幸福に暮らせる
- 家族介護モデルではない
- 歳をとって、学歴、肩書、年収を自慢すると、嫌われる
- 個人単位では、にぎわいよりも、うれしいの方が良いか？



# 「2040年に向けたサービス提供体制等のあり方」検討会 とりまとめ（概要）

令和7年7月25日

社会保障審議会介護保険部会（第123回）

令和7年7月28日

資料 1

## 地域における「連携」を通じたサービス提供体制の確保と地域共生社会

- 2040年に向けて、高齢化・人口減少のスピードが異なる中、地域の実情を踏まえつつ、事業者など関係者の分野を超えた連携を図り、サービス需要に応じた介護、障害福祉、こどもの福祉分野のサービス提供体制の構築が必要。
- 地域住民を包括的に支えるための包括的支援体制の整備も併せて推進することで、地域共生社会を実現。

## 2040年に向けた課題

- 人口減少、85歳以上の医療・介護ニーズを抱える者や認知症高齢者、独居高齢者等の増加
- サービス需要の地域差。自立支援のもと、地域の実情に応じた効果的・効率的なサービス提供
- 介護人材はじめ福祉人材が安心して働き続け、利用者等とともに地域で活躍できる地域共生社会を構築

## 基本的な考え方

- ① 「地域包括ケアシステム」を2040年に向け深化
- ② 地域軸・時間軸を踏まえたサービス提供体制確保
- ③ 人材確保と職場環境改善・生産性向上、経営支援
- ④ 地域の共通課題と地方創生（※）

※介護は、特に地方において地域の雇用や所得を支える重要なインフラ。人手不足、移動、生産性向上など他分野との共通課題の解決に向け、関係者が連携して地域共生社会を構築し、地方創生を実現

## 方向性

### （1）サービス需要の変化に応じた提供体制の構築 等

#### 【中山間・人口減少地域】サービス維持・確保のための柔軟な対応

- ・ 地域のニーズに応じた柔軟な対応の検討
- ・ 配置基準等の弾力化、包括的な評価の仕組み、訪問・通所などサービス間の連携・柔軟化、市町村事業によるサービス提供 等
- ・ 地域の介護等を支える法人への支援

※サービス需要変化の地域差に応じて3分類

#### 【大都市部】需要急増を踏まえたサービス基盤整備

- ・ 重度の要介護者や独居高齢者等に、ICT技術等を用いた24時間対応
- ・ 包括的在宅サービスの検討

#### 【一般市等】サービスを過不足なく提供

- ・ 既存の介護資源等を有効活用し、サービスを過不足なく確保
- ・ 将来の需要減少に備えた準備と対応

### （2）人材確保・生産性向上・経営支援 等

- ・ テクノロジー導入・タスクシフト/シェアによる生産性向上  
※ 2040年に先駆けた対応。事業者への伴走支援や在宅技術開発
- ・ 都道府県単位で、雇用管理・生産性向上など経営支援の体制の構築
- ・ 大規模化によるメリットを示しつつ、介護事業者の協働化・連携（間接業務効率化）の推進

### （3）地域包括ケアシステム、医療介護連携 等

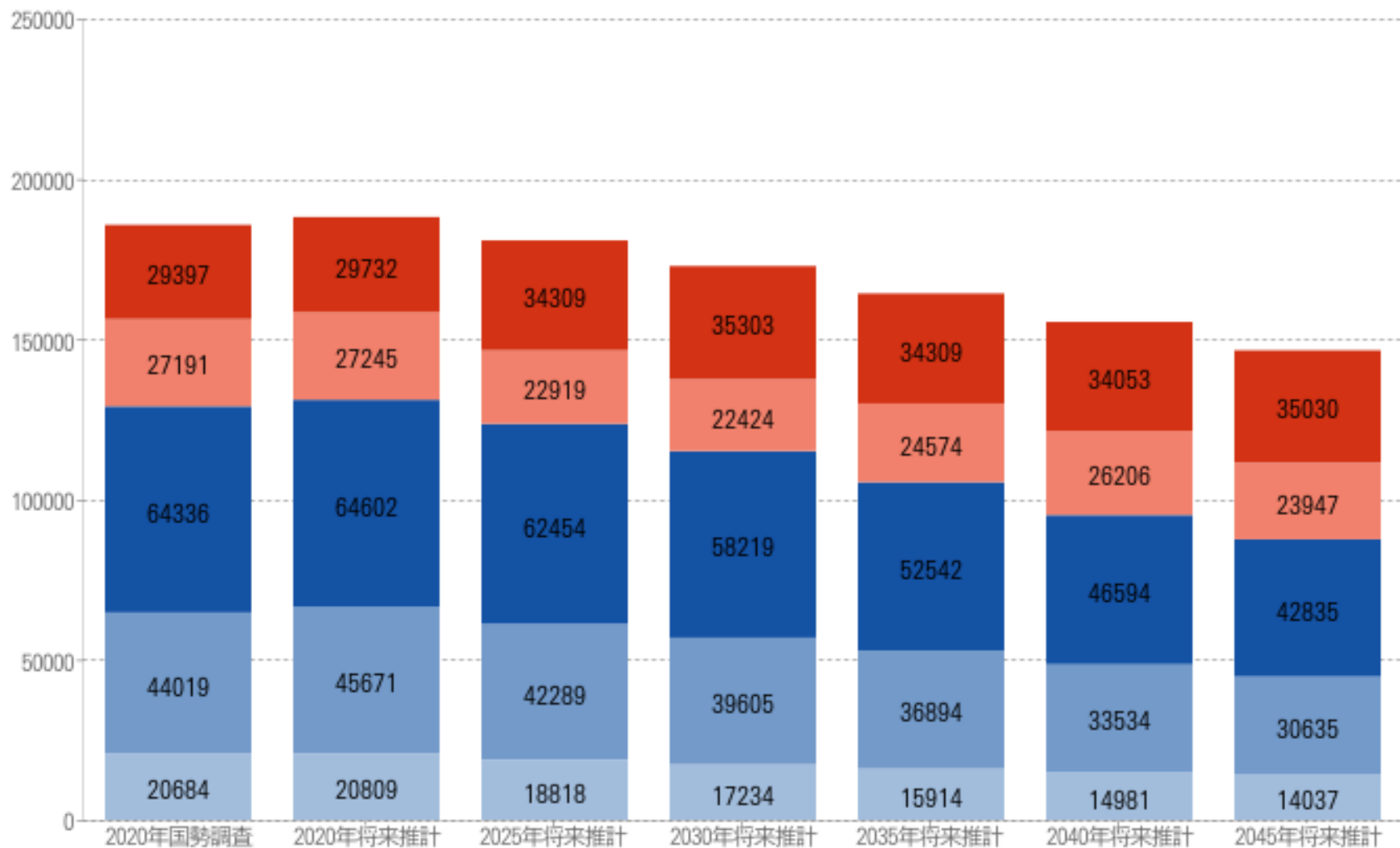
- ・ 地域の医療・介護状況の見える化・状況分析と2040年に向けた介護・医療連携の議論（地域医療構想との接続）
- ・ 介護予防支援拠点の整備と地域保健活動の組み合わせ  
※ 地リハ、介護予防、一体的実施、「通いの場」、サービス・活動C等の組み合わせ
- ・ 認知症高齢者等に対する、医療・介護等に加え、地域におけるインフォーマルな支援の推進

### （4）福祉サービス共通課題への対応（分野を超えた連携促進）

- ・ 社会福祉連携推進法人の活用を促進するための要件緩和
- ・ 地域の中核的なサービス主体が間接業務をまとめることへの支援

- ・ 地域の実情に応じた既存施設の有効活用等（財産処分等に係る緩和）
- ・ 人材確保等に係るプラットフォーム機能の充実
- ・ 福祉医療機構による法人の経営支援、分析スコアカードの活用による経営課題の早期発見

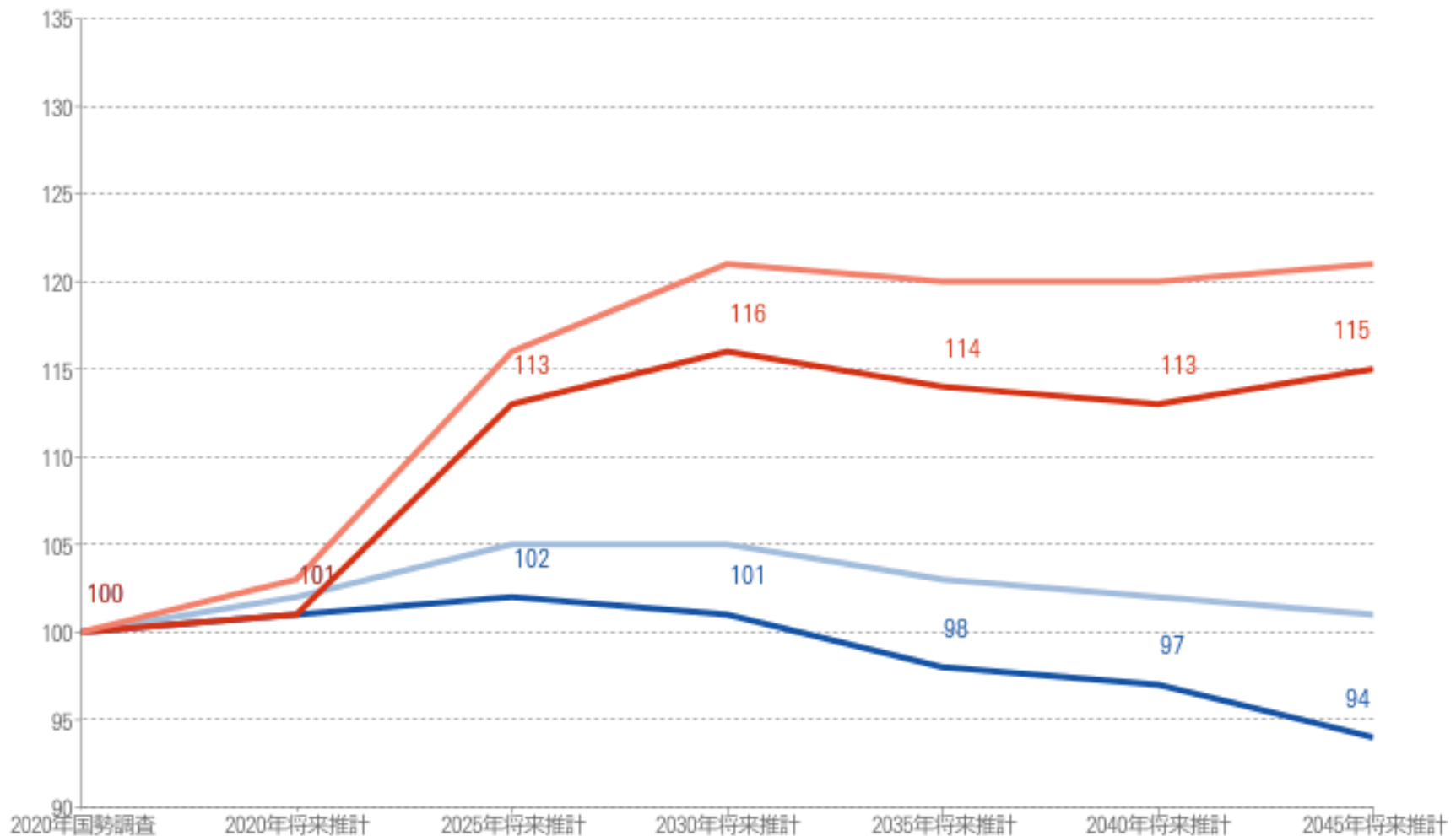
# 小田原市における将来推計人口



0～14歳 15～39歳 40～64歳  
65～74歳 75歳以上

出典：日本医師会地域医療情報システム

# 小田原市における医療介護需要



■ 医療：小田原市 ■ 医療：全国平均  
■ 介護：小田原市 ■ 介護：全国平均

2010年比：2035年医療需要は0.98倍  
2010年比：2035年介護需要は1.14倍

出典：日本医師会地域医療情報システム



# 神奈川県西部の地域医療構想

	2015年 病床数	2025年 必要病床数	
高度急性期	466	269	▼197
急性期	1277	777	▼500
回復期	108	863	△755
慢性期	1392	772	▼557
未選択等	53		
病床合計	3296	2681	▼615
在宅医療	4251	5541	△1290
訪問診療分	2913	3375	

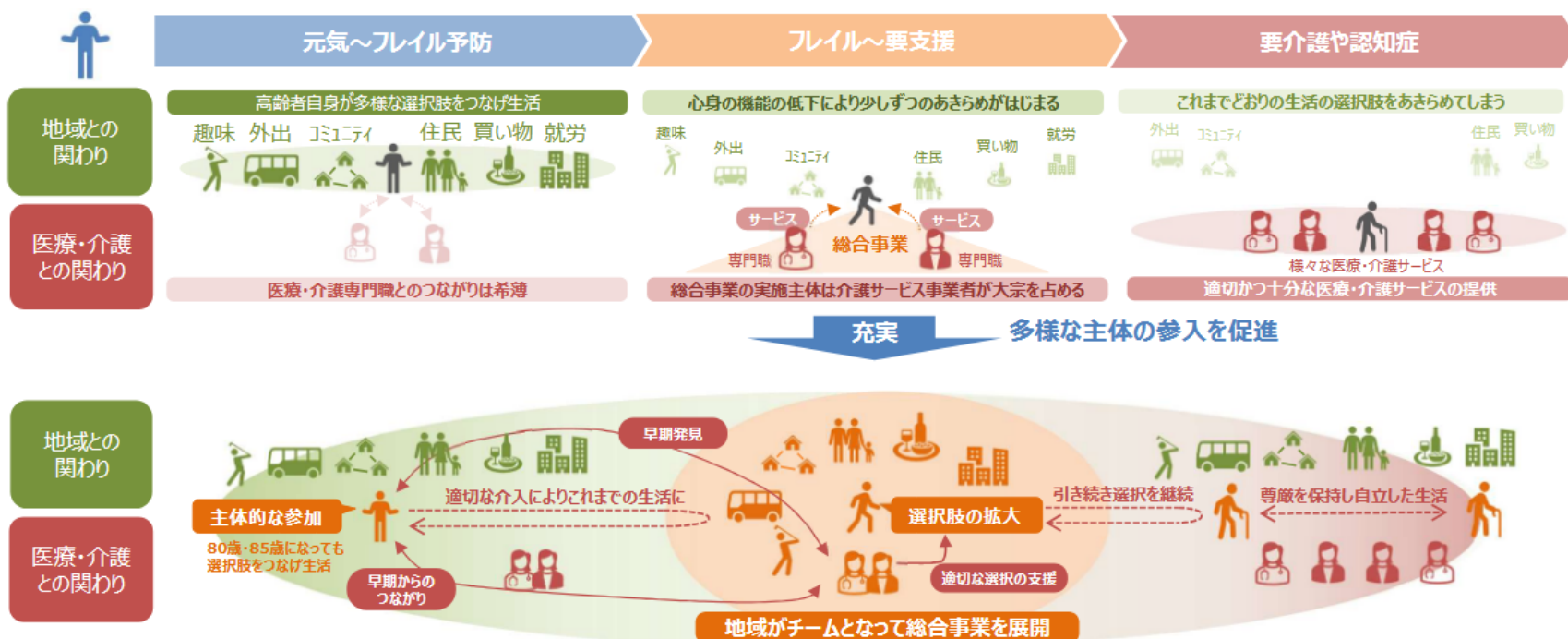
出典：神奈川県地域医療構想

基本在宅、時々入院  
(特別老人ホームも同様に満床)

# 介護予防・日常生活支援総合事業の充実に向けた検討会における議論の中間整理（概要）②

## 高齢者や多様な主体の参画を通じた地域共生社会の実現・地域の活性化

- 高齢者の地域での生活は、医療・介護専門職との関わりのみならず、地域の住民や産業との関わりの中で成立するもの。また、高齢者自身も多様な主体の一員となり、地域社会は形作られている。
- 総合事業の充実とは、こうした地域のつながりの中で、地域住民の主体的な活動や地域の多様な主体の参入を促進し、医療・介護の専門職がそこに関わり合いながら、**高齢者自身が適切に活動を選択できる**ようにするものである。
- 総合事業の充実を通じ、高齢者が元気づちから地域社会や医療・介護専門職とつながり、そのつながりのもとで社会活動を続け、介護が必要となっても必要な支援を受けながら、住民一人ひとりが自分らしく暮らし続けられる「地域共生社会」の実現を目指していく。



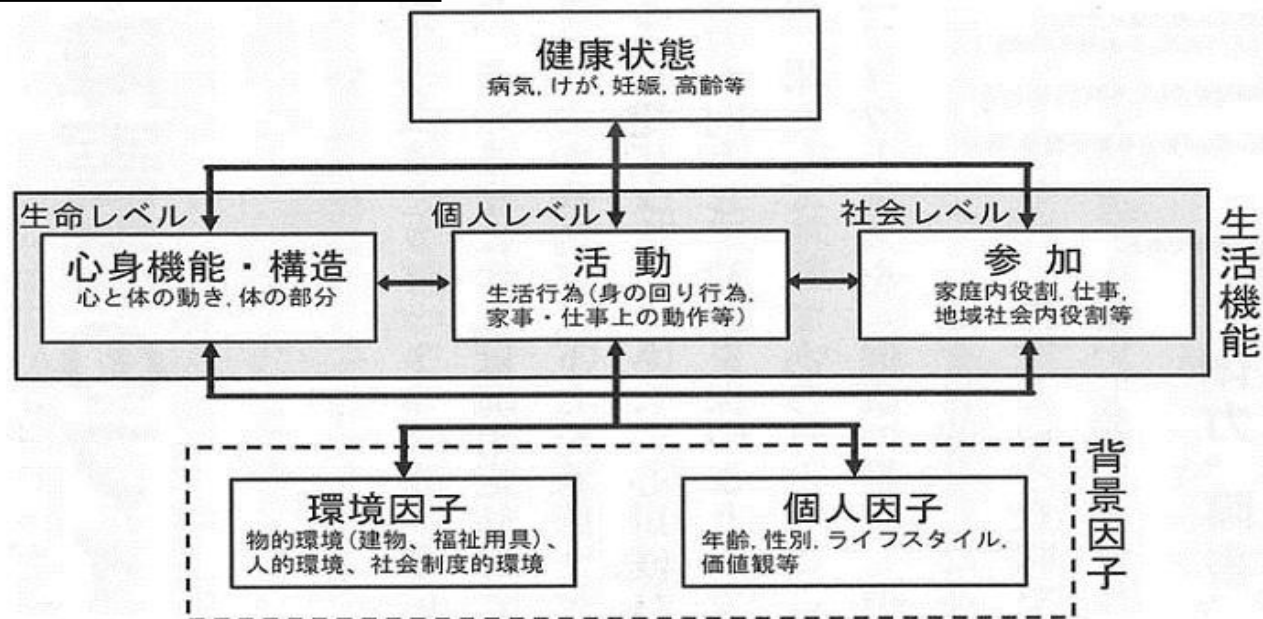
地域の人と資源がつながり地域共生社会の実現や地域の活性化

# ICF分類とは

## ICF分類とは

国際生活機能分類のこと。健康状態、心身機能、障害の状態を相互影響関係および独立項目として分類し、当事者の視点による生活の包括的・中立的記述をねらいにする医療基準。

## ICF分類の概念枠組み



# 科学的介護(Long-term care Information system for evidence)

興味・関心チェックシート

生活行為	している	してみたい	興味がある	生活行為	している	してみたい	興味がある
自分でトイレへ行く				生涯学習・歴史			
一人でお風呂に入る				読書			
自分で服を着る				俳句			
自分で食べる				書道・習字			
歯磨きをする				絵を描く・絵手紙			
身だしなみを整える				パソコン・ワープロ			
好きなときに眠る				写真			
掃除・整理整頓				映画・観劇・演奏会			
料理を作る				お茶・お花			
買い物				歌を歌う・カラオケ			
家や庭の手入れ・世話				音楽を聴く・楽器演奏			
洗濯・洗濯物たたみ				将棋・囲碁・麻雀・ゲーム等			
自転車・車の運転				体操・運動			
電車・バスでの外出				散歩			
孫・子供の世話				ゴルフ・グラウンドゴルフ・水泳・テニスなどのスポーツ			
動物の世話				ダンス・踊り			
友達とおしゃべり・遊ぶ				野球・相撲等観戦			
家族・親戚との団らん				競馬・競輪・競艇・パチンコ			
デート・異性との交流				編み物			
居酒屋に行く				針仕事			
ボランティア				畑仕事			
地域活動 (町内会・老人クラブ)				賃金を伴う仕事			
お参り・宗教活動				旅行・温泉			
その他 ( )				その他 ( )			
その他 ( )				その他 ( )			

# 自立支援型地域ケア会議

## これからの地域ケア会議 ～自立支援型地域ケア会議～

### 【これからの地域ケア会議】

- ①ケース選定のルールを定め、**早期対応**する。
- ②**定例的に開催**する。
- ③直接の支援者以外の**専門職が参加**する。
- ④**時間管理**を徹底する。
- ⑤「**誰がいつまでに何をするのか**」決める。

これからの地域ケア会議では、リハビリや医療等との連携を行い、利用者の状態を改善・重度化防止していくための支援方法を検討する必要があります。

自立支援型ケアマネジメントに資する  
地域ケア会議の開催が必要になります！

※「**自立支援**」は決して**サービス抑制ではありません！**

利用者の状態を改善・安定させるために、必要なサービスを利用していただけよう支援するものです。

## 2 自立支援について

### 自立支援とは何か

#### 自立支援：

高齢者一人ひとりが、住み慣れた地域で、その能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう支援すること。

#### 自立支援の実践例～Nさん（78歳、女性）の場合～



自宅で転倒し  
1か月間安静



ヘルパーによる買い物同行等の支援を受け、無理のない範囲で歩いて外出



長い距離を歩けるようになり、また1人で買い物に行けるまで状態が改善



ヘルパーに買い物など困りごとを何でもお願い



外出機会が減るなど活動範囲が狭まり、状態がさらに悪化

生活が  
改善



# 生活支援体制整備事業（WSを通じて資源開発）

## 第3 生活支援・介護 予防サービスの充実

## 【参考】生活支援・介護予防の体制整備におけるコーディネーター・協議体の役割

（１）生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の配置 ⇒多様な主体による多様な取組のコーディネート機能を担い、一体的な活動を推進。コーディネート機能は、以下のＡ～Ｃの機能があるが、当面ＡとＢの機能を中心に充実。

### （Ａ）資源開発

- 地域に不足するサービスの創出
- サービスの担い手の養成
- 元気な高齢者などが担い手として活動する場の確保 など

### （Ｂ）ネットワーク構築

- 関係者間の情報共有
- サービス提供主体間の連携の体制づくりなど

### （Ｃ）ニーズと取組のマッチング

- 地域の支援ニーズとサービス提供主体の活動をマッチングなど

エリアとしては、第１層の市町村区域、第２層の日常生活圏域（中学校区域等）があり、平成29年度までの間にこれらのエリアの充実を目指す。

① 第１層 市町村区域で、主に資源開発（不足するサービスや担い手の創出・養成、活動する場の確保）中心

② 第２層 日常生活圏域（中学校区域等）で、第１層の機能の下で具体的な活動を展開

※ コーディネート機能には、第３層として、個々の生活支援・介護予防サービスの事業主体で、利用者と提供者をマッチングする機能があるが、これは本事業の対象外



（２）協議体の設置 ⇒多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携・協働による取組を推進

### 生活支援・介護予防サービスの多様な関係主体の参画例

NPO

民間企業

協同組合

ボランティア

社会福祉法人

等

※ コーディネーターの職種や配置場所については、一律には限定せず、地域の実情に応じて多様な主体が活用できる仕組みとする予定であるが、市町村や地域包括支援センターと連携しながら活動することが重要

# 介護予防・生活支援拠点整備及び 開設準備支援事業

平成27年度補正予算（案）  
18. 2億円

## 1. 概 要

平成29年4月の介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）全面移行に向けて、高齢者の介護予防教室などの多様な通いの場や、見守りや安否確認などの生活支援の活動拠点となる「介護予防・生活支援拠点」の整備等を支援する。

## 2. 事業内容・補助単価

### ①地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金（ハード交付金） 15. 5億円

○介護予防・生活支援拠点の整備に必要な経費を助成

【補助単価（上限額）】

〈創設の場合〉1か所あたり 28, 000千円

〈改修の場合〉1か所あたり 8, 500千円

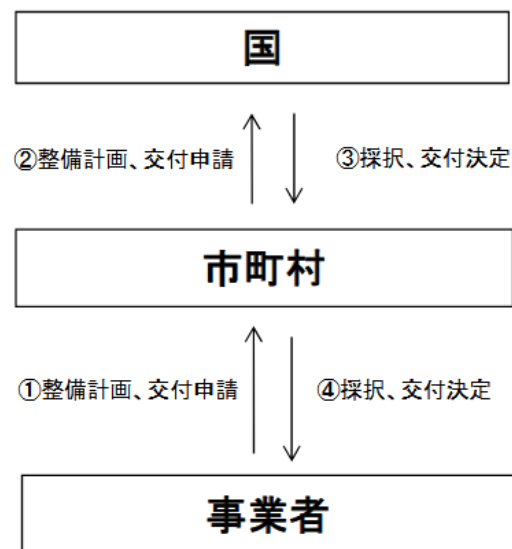
### ②地域介護・福祉空間整備等推進交付金（ソフト交付金） 2. 7 億円

○介護予防・生活支援拠点の実施に必要な設備等に要する経費を助成

【補助単価（上限額）】

1か所あたり 3, 000千円

## 3. 補助の流れ



# エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）とは

## 「高齢者にやさしい都市の8つのトピック」

・2007年、世界保健機関（WHO）が提唱した、世界的な高齢化への対応として、アクティブエイジングを促進する都市環境についての概念

・エイジフレンドリーシティの実現には、都市環境に関する8つのトピック（右図）について検証しながら、まちづくりを進める必要がある。

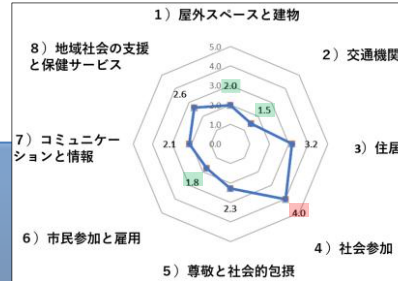




# エイジフレンドリーシティ 地区ワークショップ

生活支援体制整備事業 ワーク  
ショップマニュアルの援用

1. 地域の魅力と課題
2. 地域資源把握とSWOT分析



コミュニティ・アセスメント



対話型グループワーク



コミュニティ・デザイン手法をもちいて、参加者が対話をとおして、地域の魅力と課題を整理、把握、分析し、自分のために仲間を誘って取組みたいことを発想させる。

## 3. 健康づくり・生きがいづくりプログラム検討

子育て

活動場所の  
確保

老いを学ぶ

社会参加から健康・生きがいづくり  
→仲間づくりと能動的な信頼関係構築

**自分らしく最期まで暮らすため  
にはどうしたらよいか？**



# 実証：地域課題×個別ニーズ プロジェクト

お一人でも  
お気軽に参加ください

人生100年時代が到来！  
**シニアライフ  
プランセミナー**  
10.13(日) 10:00-12:00  
参加無料  
定員20名

豊川小学校1階 くるみルーム

平均寿命が延び、超長寿社会に突入しました。子育てや仕事が一段落しても人生は長く続き、元気なうちから健康づくりや地域での支え合いについて考えていく必要があります。豊川地区ですっと楽しく希望をもって暮らすためにも「自分らしい生き方」について一緒に想像してみませんか？ 皆様のご参加を心よりお待ちしております！

**セミナー内容**

- 「かかりつけ医とこれからの地域医療」  
石井呼吸器内科医院 石井 博司氏
- 「シニア世代のお金の工夫」  
柳田 圭介氏 (1級ファイナンシャルプランニング技能士)
- 「フレイル（虚弱）予防とまちづくり」  
東海大学建築都市学部 後藤 純 准教授  
(アーバンデザインセンター小田原 副センター長)
- 「豊川地区まちづくり分析報告」  
東海大学 都市計画研究室

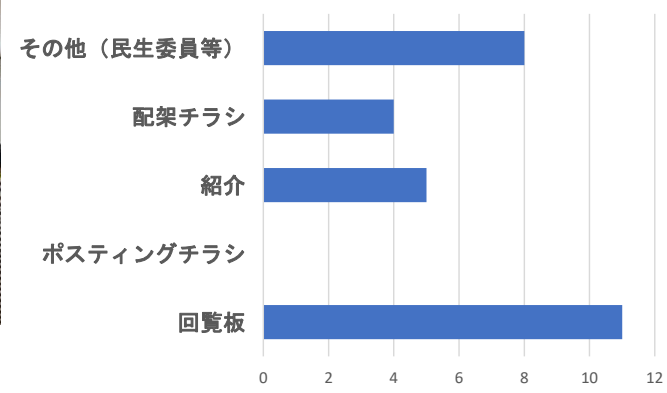
**豊川地区での取組の紹介**

令和5年度に「人生100年時代の地域づくりワークショップinとよかわ」を3回開催、豊川地区の魅力や課題などについて語り合いました。興味があること、地域でやってみようことを話した中で「趣味や特技を活かした高齢者の健康づくり・フレイル予防」というアイデアが出ました。本セミナーは、そのアイデアをカタチにしたものです。ぜひお気軽にご参加ください！

申込先 小田原市高齢介護課 TEL：0465-33-1864  
主催 アーバンデザインセンター小田原



## セミナーをどこで知りましたか？



定員20名のところ、当日参加者は28名であった。動員ではなく、興味を持った人が参加してくださった。



## ・どのような活動に参加してみたいですか？

(1) 若い世代の地域活動への参加を促す企画

参加してみたい・興味がある 23/28 82%

(2) 歩きやすい道路環境や活動場所づくりの企画

参加してみたい・興味がある 28/28 100%

(3) 高齢者の健康づくり・フレイル予防の企画

参加してみたい・興味がある 28/28 100%

ハイキングコースを作りたい、ウォークラリーの企画、フラッと寄れる(大人も子供も)場所づくりをしてみたいという意見が出され、これから取り組んでいく。



お散歩マッププロジェクト

2025

# キックオフ ミーティング

2/1 (土)

10:00 ~ 11:30

Kick off meeting

参加者歓迎・参加費無料

豊川地区にお散歩マップが欲しい！そんな地元の声から始まったこの企画。  
地域の皆さんと学生とが一緒になって、豊川地区の魅力を掘り下げます！  
ご興味ある方、是非参加してみませんか？一緒にお散歩マップを作しましょう！

開催場所 豊川小学校くるみルーム

令和5年度に「人生100年時代の地域づくりワークショップinとよかわ」を3回開催、豊川地区の魅力や課題などについて語り合いました。興味があること、地域でやってみたいことを話した中で「地域のお散歩マップが作りたい」というアイデアが出ました。本企画はそのアイデアをカタチにしたものです。ぜひお気軽にご参加ください！

主催：アーバンデザインセンター小田原

協力：東海大学 建築都市学部 都市計画研究室

お問い合わせ先：0465-33-1758 (UDCOD 事務局：小田原市都市政策課)

## 参加者のニーズ

- ハイキングコースを作りたい、ウォークラリーの企画
- フラツと寄れる(大人も子供も)場所づくりをしてみたい

## フラツと寄れる場所

- 豊川地区では、行政からのアプローチでは実現が難しい
- 住民主導で、良い場所をみつけて、居場所へと育てていく

## まちづくりの担い手が不足

- 動きにくい住民自治組織のニーズは汲みながらも
- 新たなプロジェクトを通じて、活動をしてみたい仲間(組織や人的資源)を見つける(4~5人でよい)
- 生活支援体制整備事業のコーディネータの本来の仕事





# 認知症カフェ「ロバのあし」×お散歩マップ



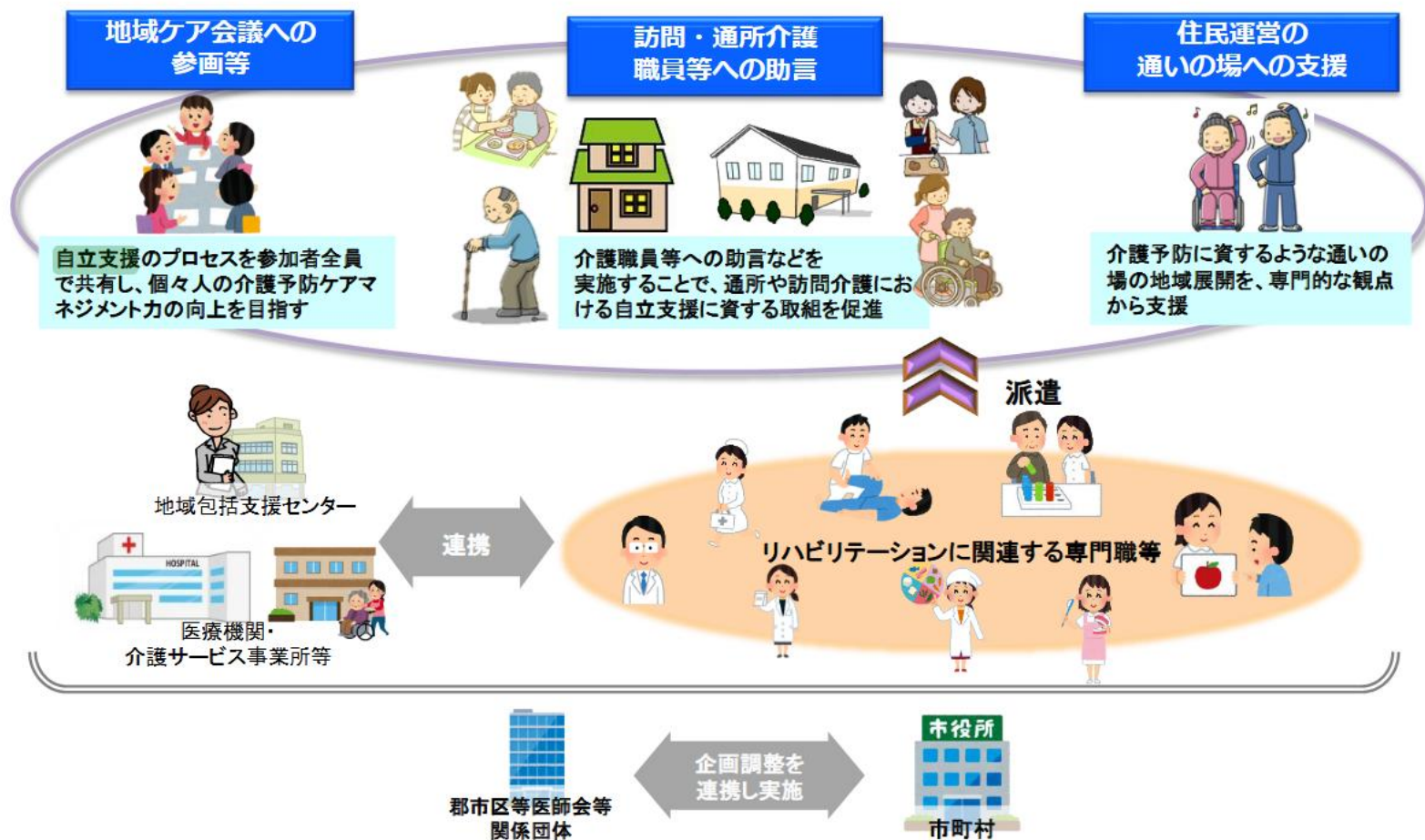
- 地域包括支援センターとよかわ・かみふなか
- 認知症カフェ「ロバのあし」
  - 地域の方々、認知症の方やご家族、どなたでも自由に参加できるお散歩をメインとした交流の場
- お散歩マップ「押しスポットコース」を手に、まちあるきを実施
- UDCODとしても、お散歩マップを活用した初めてのまちあるき企画
- 包摂的に「自分のまち」について語り合う機会



# 社会参加をつづけること、そのための多職種連携

## 地域リハビリテーション活動支援事業の概要

- 地域における介護予防の取組を機能強化するため、地域ケア会議、通所・訪問介護事業所、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進
- 市町村は、郡市区等医師会等の関係団体と連携の上、医療機関や介護事業所等の協力を得て、リハビリテーション専門職を安定的に派遣できる体制を構築するとともに、関係機関の理解を促進



LIFEの一層の活用などにより、特に栄養と社会参加は、その成果が問われる

# 社会参加のベース社会資源・地域資源をはぐくむ

UDCOD  
Urban Design Center ODawara



「アーバンデザインセンター（UDC）」は、  
**課題解決型＝未来創造型**まちづくりのための  
**公・民・学の連携**による組織です。  
令和5年3月、全国で24番目のUDCとして、  
UDCOD（アーバンデザインセンター小田原）  
を設立しました。



## ユーディーシーオーディー UDCOD（アーバンデザインセンター小田原）

UDCODは、地域社会に必要な公的サービスを担う「**公共**」、市民活動や経済活動を通じて地域の魅力と活動の向上を担う「**民間**」、専門知識や技術を基に先進的な活動を担う「**大学**」などが日常的・多面的に連携し、まちの未来を描き実践していくエンジンとしての役割を担います。

複雑化するまちの課題を解決し、まちの**魅力をさらに高める**ため、**地域資源**を生かしたまちづくりの**調査・研究**を行います。



社会参加・地域づくりは、専門とするUDCODに、ぜひご相談ください。